

平成30年度 学校関係者評価

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	3.0	教育理念・教育目的は、学生が卒業時点において持つべき資質を明示しており、学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに載せ、各種説明会で説明している。今年度より3つのポリシーが作成され、より明確に示されている。学生には各種オリエンテーションにおいて、具体的に理解できるような説明に努めているが、認識には個人差がある。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。高い理念があると思われる。
2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.4			
3	本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は、実践者および学習者の両側面から設定されており、教育理念・教育目的と一貫性がある。教育目標は、設定した教育内容をすべて網羅していない科目や具体性に欠ける科目及び実現可能かの判断が難しい科目もある。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している	2.9			
3	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている	2.6			
4	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.2	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性について理解に努めているが、実践に反映されていない部分もあり、教職員全体が明確に理解しているとは言えない。また、一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	特記事項なし	・新カリキュラム編成に向けての準備の中でも、意見交換やすり合わせをしておくよと思われる。
2	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.4			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.4	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているが、十分な議論はなされておらず、教員の理解には差が生じている。	特記事項なし	・自己評価点が低下しているのは、教員が他の仕事に時間を取られていることに原因があるのではないかと。

III-3 科目、単元構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.6	考え方と根拠をもって科目を構成しているが、明確に示されていない科目があり、教員の理解にも差が生じている。単元についても、構成に関する考え方や根拠が明確でない科目もあり、検討する必要がある。教育理念・目的、教育目標と整合性が不十分な科目もあるため、改善を図っているが、未だ十分ではない。構成した科目は、PT・OTを養成するのに妥当と思われるが、社会情勢の変化への対応という観点ではさらに検討を要する。また、本学院の特徴を表しているが、検討を要する科目もある。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.4			
3	科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.5			
4	構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	2.9			
5	構成した科目は本学院の特徴を表している	2.7			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.5	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に示されており、オリエンテーション時に説明しているが、学生の理解は不十分であり、単位修得の支援には至っていない。科目の配列は学修の質を維持できるように考慮しているが、関連性や順位性については調整が難しい科目もある。カリキュラムの内容について学外の関連分野関係者と連携し検討しているが、新たなカリキュラムの作成・見直しには至っていない。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.6			
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.8			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.9	単位認定の基準は明確であり、妥当と思われる。科目によっては議論を要する場合もあるが、基準に基づき十分に検討した上で単位認定するように努めている。また、他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.5			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.0			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.0	教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整しているが、人事において専門性が重視されていないため、十分ではない。管理・運営に関する業務量が多いため、授業準備に十分な時間を取ることができない。自己研鑽の機会はあるが、個人の意思に委ねられておりシステムとしては機能していない。研究授業を行うなど相互研鑽の機会を設けているが、頻度が少なく十分ではない。	・教員の教育; 研究会や学会参加後の伝達講習(OT)。	・専任教員として運営をどうとらえるか、授業準備に必要な時間はどの程度かなど、運営と授業準備との時間の割合について検討を要する。 ・教員の数が増やせると良い。
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	1.5			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.3			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.3			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.2	本学院の教育理念・教育目的、教育目標は、実習の手引きに明示し、実習指導者説明会でも周知に努めているが、実習施設により理解の差がある。臨床実習施設は臨床教育体制を整えている。指導者の役割は実習の手引きに記載するとともに説明会を実施して説明している。学生指導に関しては、状況に応じて連絡を取り合い、臨床実習訪問を行う等の協働体制を整えている。対象者の権利に関しては、臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引きに明示して伝達している。学生が関係する事故に関しては、ヒヤリハット報告書を作成して状況を把握し、原因を分析して対策を講じるとともに、学生にも周知している。安全対策は実習の手引きに明示し、臨床実習に向けてのオリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.9			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.8			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.8			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	3.0			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	3.0			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0			

IV 教授・学習方法

IV-1 授業内容のまとまりの考え方

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.5	授業内容は、教育課程との関係において当該学生のために設定されているが、学科内での検討課題は残されている。授業内容のまとまりについて学科内あるいは教員間では話し合っているが、十分に妥当性があるとは言えない科目もある。授業内容間の重複や整合性、発展性等に関しても、学科内で検討を続け改善を図っているが、未だ明確になっていない部分があり、引き続き検討が必要である。	・授業内容間の重複や整合性、発展性を考慮した検討および調整；現状分析と検討。カリキュラムツリーの作成(OT)。	・自己評価が低下しているのは、教員の時間に余裕がないのではないか。
2	授業内容のまとまりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.4			
3	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.1			

IV-2 授業の展開過程

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.5	授業内容の形態は各教員に任されており、授業内容に応じた選択に努めているが、明確な区別はされておらず検証もされていない。学生の状況に応じて学習支援に努めているが、個別対応は担当教員に任せられており、十分とは言えない面もある。効果的な教育・指導を行うために、教員間で情報共有に努め、協力しているが、明確な体制にはなっていない。	・授業方法向上のため、授業方法の見直し；グループワークの見直し。理学療法技術(特に検査、評価技術)の向上に向けた取り組み(PT)。 ・効果的な授業の展開過程について；オリエンテーション、フィードバック、到達度判定(OT)。	・個々の教員に任せられているところが大きいと感じる。
2	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.5			
3	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.4			

IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.2	学生による授業評価を実施し、学科内でも検討している。教員は個々に改善に努めているが、個人に任せられており状況の確認には至っていない。多面的な評価に努めているが、実際の評価方法については検討が必要である。評価基準と方法はシラバスに示しているが、明確でない科目もある。検討を要する場合は公平性を保つように努めているが、検討が必要などころもある。	特記事項なし	・個々の教員に任せられているところが大きいと感じる。 ・「Ⅲ-6教員の教育」との関連性において、教員自身の資質向上に問題がある場合、授業計画までの検討には至らないのではないか。
2	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.1			
3	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.4			

IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.4	シラバスの内容の改善を図り、わかりやすい説明に努めている。学生の学習支援の一つとなっているが、動機づけまで至っていないものもある。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。

V 経営・管理過程と財政

V-1 設置者の意思

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	本学院の教育理念・教育目的は、学生便覧等に明示されており、業績評価の病院目標及び学院目標にも反映されている。管理者による教育課程経営や管理運営等についての考え方の明示は十分でなく、設置者の考え方を理解するには至らない。	特記事項なし	・自己評価点が高まっているのは、良いことと思う。
2	本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.5			
3	本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.6			
4	教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.5			

V-2 組織体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.9	職位職階制をとっており、その役割は比較的明確になっている。意思決定システムとして、学科内会議、教員会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境はつくられている。教職員の資質向上にむけての施策はあるが、教育理念・教育目的達成の整合性は十分でない。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.7			
3	教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.5			

V-3 財政基盤

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.4	財政基盤確保についての考え方は明確であるが、病院との関係において独自の配慮が必要である。財政基盤の成り立ちについては、幹部会議、管理会議、診療会議、その他決算報告等の報告や資料で理解に努めているが、十分でない。教職員の意見は学院運営会議で出すことはできるが、反映されるように機能しているとは言えない。	特記事項なし	・病院附属という点では病院の収支状況に左右される点もあるため、もっと大きな母体(グループや本部)でも経営管理下に入るべきかと考える。
2	教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.4			
3	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.3			

V-4 施設設備の整備

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.6	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方は明示されているが、設備更新や建て替えなどの将来展望としては不明確である。教育機器に関しては、収支の関係を考慮する必要があり、計画的な整備は難しい。可能な範囲で実施するため、指定規則で提示されているものは概ね整備されているが、更新が進まず十分とは言えない。防災に関しては、東名古屋病院の防災マニュアルを置き、防災訓練にも参加しているが、リハ学院独自の防災体制の整備は不十分である。	特記事項なし	・施設設備などは国立病院機構病院の物品の有効利用を推進してはどうか。 ・リハ学院独自の防災体制整備をしてもよいのではないかと。
2	管理者(主事以上)の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している	2.4			
3	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.0			
4	防災に対する体制を整備している	2.1			

V-5 学生生活の支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.7	学生生活の支援として、健康管理、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等を行っている。現在実施している支援は活用されており、学習の継続を助けているが、施設設備や図書の整備は不十分である。	・情報共有の充実;学年を越えた情報交換(PT)。 ・学年を越えた情報交換の取り組み(OT)。	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.6			

V-6 本学院に関する情報提供

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	2.8	定期的な情報提供や必要に応じた電話連絡等を行っており、保護者からの協力・支援を得ることにつながっていると思われる。しかし、状況に応じた対応は対象者が限られている。 理学療法士、作業療法士を養成する機関として、病院ニュース、年報、ホームページ、パンフレットの配布、学院説明会、進学ガイダンス等で広報活動を行っているが、十分とは言えない。	・保護者への情報提供;学事予定等の案内送付、定期試験後・臨床実習期間中の電話連絡(OT)。	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.6			
3	理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている	2.7			

V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.0	将来構想、長期目標が明確ではない。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし

V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.5	自己点検・自己評価を実施する体制を整え、改善点を見直しながら運用しており、教員の理解は進んでいるが、個人差が生じている。実施する体制を整え、評価結果について話し合い、改善に努めているが、カリキュラム運営や授業実践へのフィードバックとして機能しているとは言い難い。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	2.8			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.5			

V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされている。個人情報保護方針を明示し対策をとっており、学生にもオリエンテーション等で周知を図っているが、ハード面での対策が十分ではない。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	2.9			

VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学選抜についての考え方が述べられている	2.5	教育理念・目的を念頭に入学選抜に臨んでいるが、考え方として述べられてはいない。入学者状況や入学者の推移について分析・検証されているが、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の分析については検討が必要である。	特記事項なし	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されている	2.5			

Ⅶ 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.2	卒業時の到達状況は、期末試験と臨床実習Ⅲの結果から総合的に判断しており、捉え方には不明確な部分もある。卒業前の技術試験を行うなど部分的な分析は行っているが、総合的な把握に留まっている。就職・進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。機構への就職率等は目標との整合性が認められるが、その他の就職状況の分析は不十分なため整合性の確認に至っていない。卒業生に関しては、教員が同窓会の運営に参加し研修会等を実施しているが、学院が主催の卒後教育を含めて組織的な体制は検討が必要である。	・卒業時の到達状況を捉える;検査技術、情意面、卒業時アンケートの実施(PT)。	・3年生担任による卒業時の集大成としてまとめを作成し、共有してはどうか。 ・卒後教育に養成校が力を入れてくれると、新人教育に苦慮している臨床現場としては大変ありがたい。連携を図りたい。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.2			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.3			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.3			
5	卒業生への支援体制がある	2.4			

Ⅷ 地域社会／国際交流

Ⅷ-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	1.2	地域のニーズの把握はできていない。学院祭や公開講座を通して地域との交流を図っているが地域社会への貢献の観点からは十分ではない。ホームページや学院祭・公開講座を通して情報を発信しているが、受験生を対象とした情報であり、地域社会を対象とした内容とはなっていない。地域における諸資源に関しては、学生が老健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学を学習・教育活動に取り入れているが十分とは言えない。	・学院祭における公開講座の実施 ・学院祭において2年生PT企画として最大筋力の測定、ストレッチ、表情筋の紹介等の実施(PT) ・学院説明会において模擬授業の実施(PT・OT)	・いろいろな地域活動に参加できる体制を取ることができればよいが、学生の時間を奪いかねない。福祉施設や実習施設との連携を授業科目の中で位置づけられないか等の検討が必要と思われる。 ・病院の医療連携室との情報交換や、愛知県理学療法士会の推進する名東区リハビリテーションネットワークから情報収集などを通じた検討も考えられる。
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	1.9			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	2.0			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	2.0			

Ⅷ-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	1.7	一部講義を取入れたが、科目としては不十分であり、さらなる検討が必要である。国際的視野を広げるため外国雑誌を置き、検索環境も整備しているが、活用までには至っていない。	・災害医療・国際社会に関する授業の実施(JICA職員による講義)(PT)	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	1.8			

Ⅸ 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	1.6	研究活動のための財政的な環境は整いつつあるが利用には制約もあり、十分ではない。また時間的、環境的保障も十分ではない。学院内での予演会の実施と演題発表が助言・検討の場であるが、研究活動自体を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低い。教員相互で支援し合い、総合医学会などで毎年発表しているが、研究に価値を置いているとは言い難い。	特記事項なし	・自己評価が低いことから、教職員の問題意識の高さを感じるが、昨年度よりも向上している点を評価したい。 ・教員の研究活動を支援するためにも、もう少し教員の数を増やせるとよいと思われる。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.3			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	2.0			